

WTO閣僚級会合の結果概要

平成18年7月
農林水産省

I 日時・場所:6月29日(木)～7月1日(土) 於:イス・ジュネーブ

II 我が国からの出席者:

中川農林水産大臣、二階経済産業大臣、木下農林水産審議官、村上特別補佐官、佐藤総括審議官、吉村国際部長、大杉国際貿易機関室長、北村通商政策局長、小川通商機構部長、藤崎寿府代大使、近藤国際貿易・経済担当大使ほか

III 概要

1 経緯

(1) WTO交渉においては、香港閣僚会議以降、本年12月末までの交渉終結を目指して、農業と非農産品市場アクセスのモダリティを早期に確立すべく、本年5月から6月にかけての交渉議長テキスト作成に向けた集中的な作業(6週間プロセス等)を含め、各種の会合が重ねられてきたところ。

(2) 一方、交渉は、最近数か月間、我が国、EU、米国、ブラジル、インド等の主要国間で、農業の市場アクセス、農業の国内支持、非農産品市場アクセスの野心の水準とそのバランスについて、いわゆる「三角形」の膠着状態に陥っており、これをどのようにして打開するかが焦点となっていた。

2 G6閣僚会合、閣僚級グリーンルーム会合、貿易交渉委員会等の開催

今回の閣僚級会合では、モダリティ確立に向けて各国間の立場の隔たりを狭めるべく、G6閣僚会合、閣僚級グリーンルーム会合、貿易交渉委員会等において、6月22日に農業と非農産品市場アクセスの両交渉議長から提示された交渉議長テキストに基づき、集中的な議論が行われた。

3 結果

- (1) G6が中心となって着地点を模索したが、農業の市場アクセス、農業の国内支持、非農産品市場アクセスの野心の水準とそのバランスの問題や、重要品目や特別品目(SP)の問題について、各国の見解の隔たりが縮まらず、合意に至ることなく会合を終了。
- (2) 引き続き、本年12月末までの交渉終結を目指して、ラミー事務局長が調整役(ファシリテーター)となり、各国と協議することによって、モダリティ確立を促進することとなった。

4 今後の日程

今後、7月5日からの訪日を皮切りとするラミー事務局長による各国との協議等、モダリティ確立のための努力が行われることとなるが、主要国の政治日程等を踏まえれば、7月末が一つの節目と考えられる。

IV G10閣僚会合の開催

今回の閣僚級会合に先立ち、G10閣僚会合を開催して、G10としての交渉に臨む考え方を改めて確認し、プレスリリースを採択、発表。また、閣僚級会合開催期間中、G10閣僚会合を開催して、交渉の現状や今後の交渉の進め方等について意見交換。

(以上)